大坂上古墳

県立吉原工業高校の校庭となった場所にあった、直径16m、高さ４mの古墳時代後期（およそ1400年前）の円墳です。内部には全長9.65m、幅1.69m、高さ1.82mの富士山の溶岩を使って築かれた横穴式の石室があり、そこから大刀、鉄鏃、土器など、死者に副葬された各種の遺物が多数出土しました。そのため、この地域における有力豪族の墓であることがあきらかとなり、ここに移築復原されました。

また、同時に古墳時代中期（およそ1600年前）の東坂古墳も発見され、富士市指定文化財となった内行花文鏡、四獣鏡などが出土しています。

環亭去留の句碑（霊園内）

久多羅野や菊はいのちの長きもの

去留は、寛政～文化期の岳南地域の中心的俳人で、宝暦13年（1763）に東比奈の渡辺家に生まれました。幼少のころから俳諧に親しんだようですが、成人すると沼津市原の渡辺家に婿入りしました。しかし、この後、若くして隠居し、環亭去留と号して俳諧活動に専心したようです。

文政10年（1827）に没し、原の松蔭寺に葬られましたが、天保５年（1834）遺族によってこの地（渡辺家墓地）に句碑が建立されました。

寒竹浅間神社

昔、境内には竹が生い茂っており、竹採の翁がここの竹で籠を編んだと伝えられています。祭神は木花之佐久夜毘売命ですが、一説にはかぐや姫が祀られていると言われています。市内には、ここの他に、富地六所浅間神社にかぐや姫が祀られているということです（滝川神社に竹採の翁を、今宮浅間神社に竹採の嫗を祀ったとも伝えられています）。

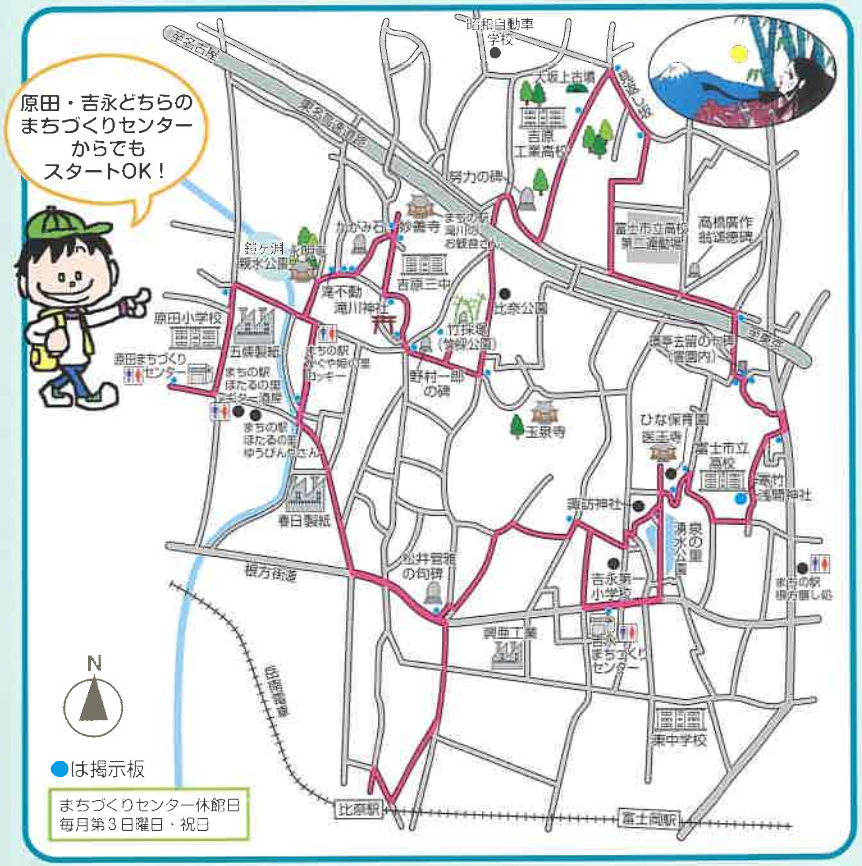
寒竹浅間神社には、富士市内では数少ない伝承芸能であるカグラ（獅子舞）が伝わっており、10月の例祭で奉納されます。

医　王　寺

医王寺は、奈良時代、行基菩薩により開基されたと伝えられ、境内からは平安時代末期の写経本を入れた経筒（富士市指定文化財）などが出土しています。薬師堂に安置されている薬師如来像（富士市指定文化財）は、平安時代末期の作と推定されています。この薬師如来像は、「医王寺のお薬師さん」と呼ばれ、古くから目の病気に霊験あらたかな仏様として信仰を集めてきました。また、境内には、ひときわ偉容を示すマキ（富士市指定天然記念物）、墓地には、武田氏の軍師として名高い山本勘助の墓など、貴重な文化財が多く見られます。

歩く健康づくり一万歩

原田・吉永「かぐや姫・泉の里」コース



●原田・吉永「かぐや姫・泉の里」コース　全長6.7km

原田まちづくりセンター → 0.6km → 永明寺 → 0.1km → 滝不動（いぼとり不動） → 0.2km → かがみ石 → 0.1km → 妙善寺 → 0.3km → 滝川神社 → 0.05km → 野村一郎の碑 → 0.15km → 竹採塚（竹採公園） → 0.8km → 大坂上古墳 → 1.3km → 環亭去留の句碑 → 0.5km → 寒竹浅間神社 → 0.5km → 医王寺 → 0.7km → 吉永まちづくりセンター → 1.4km → 松井菅雨句碑

富　士　市

〈コースのごあんない〉

このコースは、歩く健康づくり推進のため、原田・吉永地区に設けたもので、原田まちづくりセンター・吉永まちづくりセンター・比奈駅を起点に永明寺・かがみ石・竹採塚・見返し坂・医王寺など13ヶ所の史跡と伝説をたずねる１周6.5kmのコースです。（所要時間約1.5時間）

〈コース周辺の見どころ〉

松井菅雅の句碑

松に声ふくみて雪のあしたかな

松井菅雅は、明和６年（1769）、中比奈村で生まれ、幼いころ東比奈の環亭（渡辺）去留等に俳諧の手ほどきを受けました。後に雪門駿府時雨窓の第三代看主になるなど、江戸時代の文化・文政期のこの地方を代表する俳人のひとりです。

碑は、彼の没後である文政７年（1824）に門弟によって建てられました。

永明寺

永明寺には、非常に豊富な清水が湧き出る回遊式の禅宗風庭園があり、ツツジの咲く春を初め、四季折々の風情が楽しめます。また、山門を葬式の列がくぐると棺桶の死骸が消えるという伝説が残されています。

永明寺の西隣には、鎧ヶ淵親水公園があります。ここは、富士川の合戦の時、源頼朝が鎧を置いて体を洗ったことから「鎧ヶ淵」と呼ばれるようになりました。また、永明寺の小坊主がこの淵に山刀を落とし、淵の主から山刀を返してもらうのに三年間行方不明だったというお話も伝わっています。

滝不動（いぼとり不動）

むかし、この近くに“いぼ”のたくさんできた娘がおり、このお不動様に願をかけたところ、“いぼ”がすっかりとれ美しくなったことから、それ以来「いぼとり不動」と呼ばれるようになりました。今でも、多くの人々が、清らかな滝に打たれるお不動様におまいりに来ています。

かがみ石

応永29年（1422）、常陸国の小栗城城主、小栗判官満重は関東管領足利持氏に逆らったことから城を攻められ、ここから逃亡しました。この逃亡の途中、相模の横山大膳に身を寄せたものの、大膳の計略で毒殺されそうになりますが、絶世の美女“照手姫”に助けられ、姫とともに名馬鬼鹿毛で逃げのび、二人は原田の妙善寺に身を隠しました。その後、満重は将軍足利義持に許しを得て、ふたたび小栗の城主となり照手姫と仲睦まじく暮らしたと言われています。

かがみ石は鑑石園の湧き水の中にあり、照手姫が朝夕この石に姿を映して身だしなみを整えたことから“かがみ石”と呼ばれます。また、一説には照手姫ではなく、かぐや姫であったとも言われています。

妙善寺

妙善寺の本尊は、観音堂に安置される千手観音坐像です。両脇に安置される、広目天像、多聞天像とともに、富士市指定文化財となっています。妙善寺の千手観音は、「滝川の観音さん」と呼ばれ親しまれ、縁日、ご開帳日には多くの参詣人でにぎわいます。また、妙善寺には、小栗判官満重と照手姫の伝説が残されており、観音堂の下には、この地で死んだ満重の愛馬・鬼鹿毛が埋葬されていると言われています。

妙善寺は、駿河の28番目の観音札所となっています。

滝川神社

祭神は木花之佐久夜毘売命であり、創建は孝霊天皇の御代であると言われています。市内の富知六所浅間、米之宮浅間、日吉浅間などと並んで有名な神社で、「滝川の浅間さん」と親しまれ、５月の例祭にはにぎわいをみせます。

野村一郎の碑

江戸時代末期、西比奈村の名主であった野村一郎は、比奈一帯の堤防、治水事業や飲用、灌がい用水路の開削などを進めたほか、慶応２年（1866）には浮島沼周辺の水害をつねに受けている34ヶ村の村々に呼びかけて、吉原湊に大防潮堤を築造しました。しかし、明治２年の高波で大破してしまい、この残務整理のためにみずからの財産を売って支払ったと言われます。

また、茶業の振興にも力をそそぎ、茶の製法の改良など地域社会に非常に大きな功績を残しました。

竹採塚（竹採公園）

竹から生まれたかぐや姫の『竹取物語』は、奈良・平安時代のころから語りつがれてきました。

竹採公園には、自然石に「竹採姫」と刻んだ小さな塚があり、古くからかぐや姫の里と伝えられています。公園のある富士市比奈周辺にはかぐや姫ゆかりの「赫夜姫」、「籠畑」、「見返」などの地名が残り、「比奈」という地名も平安時代の『和名抄』に記載されている「姫名」からの転化であるとされています。また、かつてこの場所には、臨済宗中興の祖、白隠禅師ゆかりの無量寿寺がありました。

一般的なかぐや姫のお話では、姫は、月に帰りますが、富士市に伝えられているお話は、最後にかぐや姫は富士山に昇っていきます。コースの一部には、かぐや姫が富士山に昇ったとき、別れを惜しんで何度も振り返ったと言われる「見返し坂」がふくまれています。また、かぐや姫が辿ったという小道「囲いの道」が吉原第三中学校の正門付近から富士山まで続いていたと伝えられています。